

(始良郡隼人町大字野久美田字春花田他)

位置と環境

鹿児島県立工業技術センターの南側にあり、石元川の右岸に広がる水田の中に位置する。沖積平野内の台地で、東流する石元川と下川とに挟まれた微高地である。標高は15m前後の台地で、犬の下顎骨が出土した縄文時代後期の楠元貝塚も遺跡内には所在する。

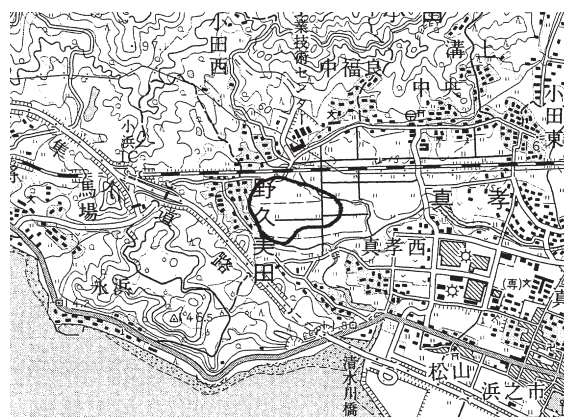
調査の経緯

遺跡は、国分・隼人テクノポリス構想に伴う分布調査で発見された。平成2年度に、県営ほ場整備事業に伴う確認調査が隼人町教育委員会によって行われた。遺跡の面積は、約8万㎡という広さをもつことが判明している。

平成4年11月～平成5年3月に、遺跡の東南の道路予定地が調査された。幅10m、長さ約200mにわたって本調査を実施した。

遺構と遺物

縄文時代及び古墳時代の竪穴住居跡・溝跡・土坑等は遺跡全体に広がる。その一角の道路部分の本調査では、調査区中央から南にかけて、後期の指宿式土器などが多量に出土した。その遺物集中箇所の下からは、竪穴住居跡が検出されている（第5号住居



第1図 春花田遺跡の位置

跡)。規模は5.6mの不整形で、焼土も検出されている。縄文時代の土器は、前・中・後・晩期にわたり、なかでも後期指宿式土器が多数を占めている。型式的には、前期曾畑式土器、深浦式、中期春日式、中期末の阿高式、中期末～後期初の大平式、轟ヶ迫式、後期指宿式、市来式、磨消縄文、晩期黒川式土器などがみられた。土器とともに軽石製品や磨製石斧、磨石などの石器が多くみられた。また、遺物が途切れる付近の南側から土坑が多数集中して検出された。その坑内からは、礫や石器も多く見つかった。中には50cmを越える石皿も出土している。

成川式期では、北側の台地の縁に台地に沿うように、幅約2m、深さ1.2mの溝が見つかった。2基の重複で、V字の深いものとU字状の浅いものが見



第2図 遺構分布図

第4図 遺構配置図

られ、後者が新しい。おそらく、その規模・場所などからみて、集落のまわりをとりまく防御、あるいは区画のための環濠と考えられる。さらに、竪穴住居跡が4基検出された。残存状態が悪く明確ではないが、約5mの方形を呈し、約1.5m四方の張り出しを持つ花卉状住居跡だと考えられる。1号は、深さ約20cmで、西側に炉跡をもつ。溝跡よりも新しい住居である。2号は浅く、ほとんど掘り方のみ、3・4号は炉跡や遺構の一部が検出されただけである。また、建物跡のピットも多数見つかった。径80cm、深さ20cmの四角い穴が規則性を持って並んでおり、中からは、根石や礎石と思われる径30cmの平ら

な石が出土している。他には、約1.5mの段差をもつ段切遺構や溝跡の近世遺構も検出されている。

特徴

幅が狭い調査で、大規模な遺跡の一部が調査されたにすぎないが、縄文時代後期と古墳時代の遺構・遺物に見るべきものがあり、土器の総数も10万点を超える。後期の竪穴住居跡や土坑群、古墳時代の住居跡・溝跡・建物跡の検出は、貴重な資料となった。

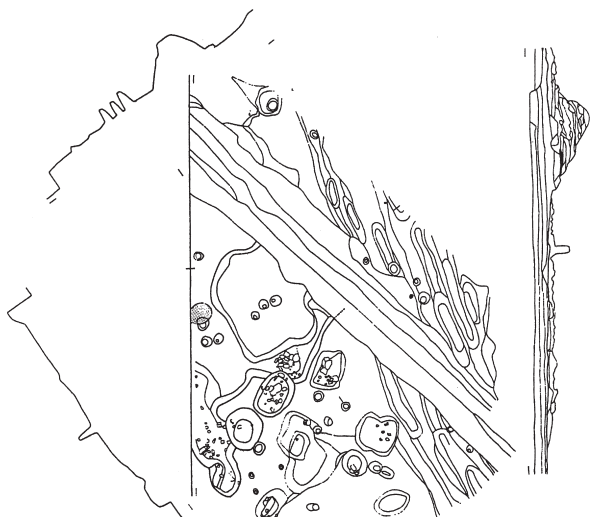
資料の所在

出土遺物は、隼人町教育委員会に保管されている。

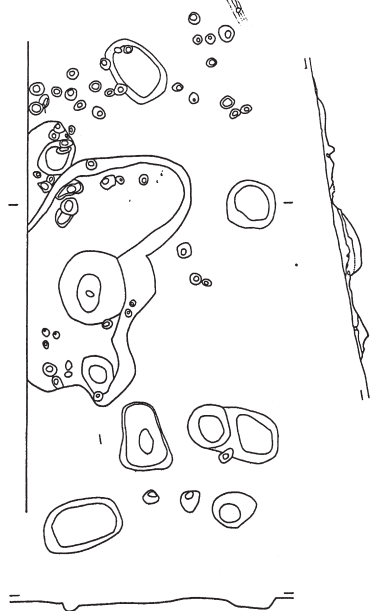
参考文献

隼人町教育委員会 1995「宮内原地区－春花田遺跡－」

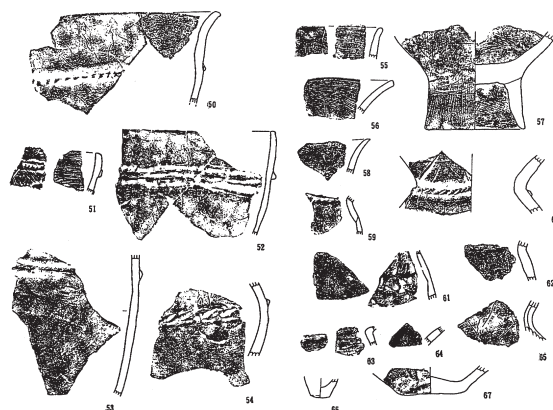
(重久淳一)



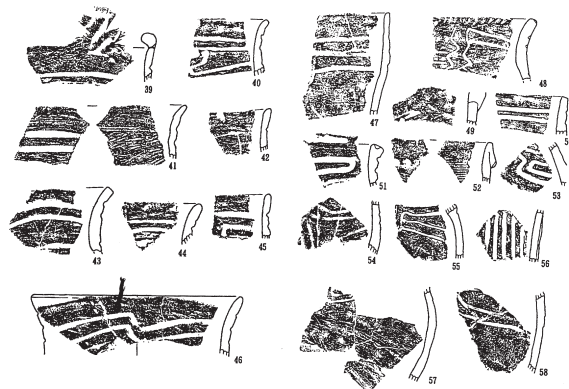
第3図 第1号住居跡



第5図 第5号住居跡



第4図 第1号住居跡出土遺物



第6図 第5号住居跡出土遺物